

# いよっ!アサガオ「団十郎」が復活

～「スポーツ祭東京2013」を彩ります～

農林総合研究センター 江戸川分場

## 背景と目的

えび茶色の花が特長のアサガオ「団十郎」は、江戸時代の人気歌舞伎役者二代目市川団十郎が演目「暫（しばらく）」で用いた装束の色にちなんで名付けられました。「団十郎」は栽培や採種が難しいため、近年「団十郎」の生産は激減していました。これを復活させたいという生産者の要望を受け、江戸川分場では栽培試験を行い、平成22年には生産者が「入谷朝顔市」で販売を再開することができました。また、「団十郎」はスポーツ祭東京2013で“東京らしい花”として活用されることになっています。このため、開催期間中に見頃を迎えるように調整する方法や、一般的な仕立て方（行灯作り、緑のカーテン）ではなくイベントに向く仕立て方の提案が求められています。そこで、会期に見頃になる播種時期を明らかにし、新たな仕立て方を検討しました。

## 成果の概要

### 1 播種時期別の開花数調査

「団十郎」は4月～6月の間、どの時期に播種をしても9月中下旬のころ、開花数が最も多くなりました。また、スポーツ祭会期となる9月28日～10月14日までは開花し続けました。このことから、アサガオは夏の花のイメージが強いですが、「団十郎」は10月初旬まで花を楽しめる品種であることが明らかになりました。しかし、開会期間中に花が大きく開花し、つるが長すぎずに行灯の2段目程度で巻けるものを想定すると、7月上旬～中旬ごろの播種がよいと考えられます。(図1、図2)

### 2 仕立て方の検討

アサガオはつる性の植物ですので、フレームがあれば何にでも巻き付けて仕立てることができます。しかし、行灯作りと同じで、花や葉を均等に付けさせるためにはつるまき作業を頻繁に行う必要があります。球などの立体的な形は風通しや作業性を考えるとフレームは15～20cm程度の間が空いている方が良いでしょう。パラソルなど本来の形を利用できると、簡単に作成できます。今回は、パラソルとくす玉を作成しましたが、アイデア次第では他にもアサガオの“魅せ方”が広がるものと考えられます。(図3)

### 3 「団十郎」の普及に向けて

今年度はプレイメントのため、江戸川分場では1万粒の「団十郎」種子を播種し、生産農家を通して開催市町村へ種子や苗を配布しました。「団十郎」栽培講習会を開催し、各市町村の栽培担当者への栽培方法を指導しました。独自の採種に成功した市町村もあり、スポーツ祭へ向けて全国から来場されるアスリートをお迎えする準備は万端です。

### 4 古くて新しいアサガオ

アサガオは小学校で誰もが一度は栽培を経験する身近な植物です。近年は省エネが求められる中で、緑のカーテンが見直されて、再びアサガオが注目されています。7月に都内では各地で朝顔市が開催されます。今後も江戸川分場ではアサガオの魅力を発掘していきます。

(上原 恵美)

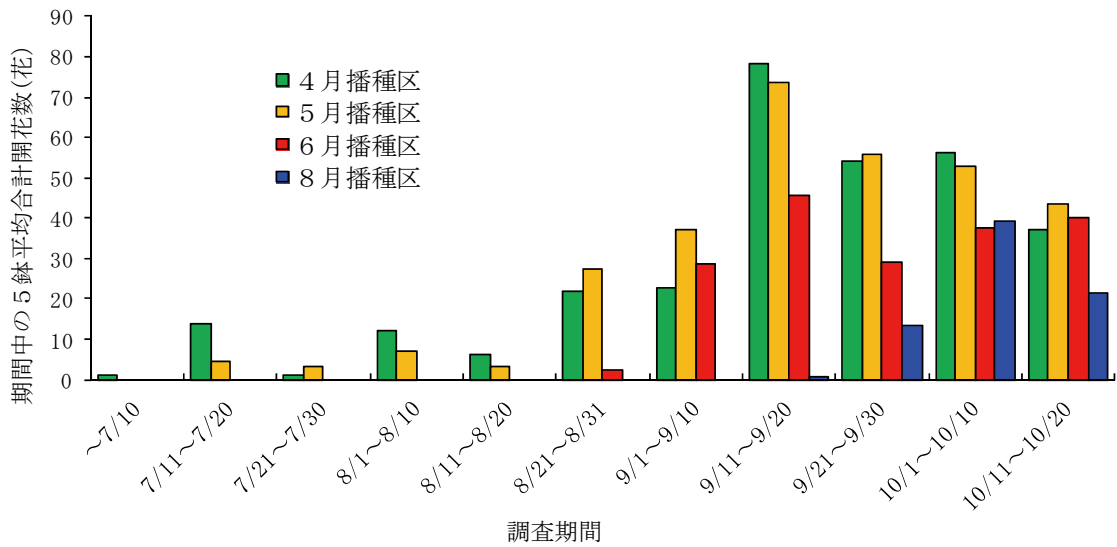


図1 播種時期別の開花数

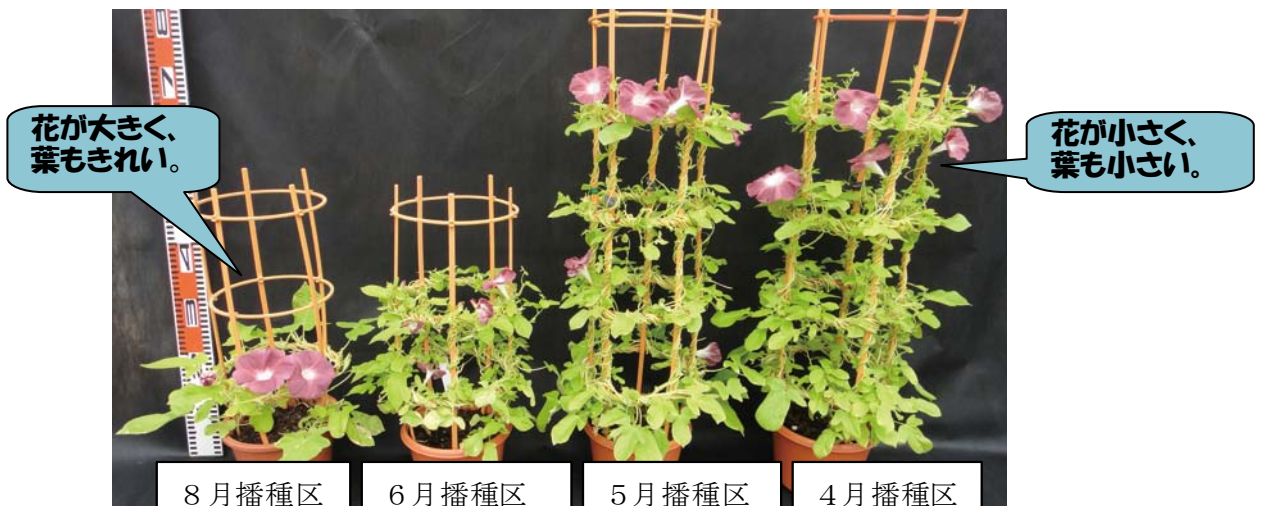


図2 播種時期別の開花の状況 (2012年9月28日撮影)



図3 「団十郎」を利用した仕立て方の事例  
(左：パラソル、右：くす玉)